2017,9,2/3　**一泊キャンプ　銀杏峰・宝慶寺キャンプ場・平家岳トレッキング記録**

2 日間とも良いお天気。2 日、小葉谷登山口から銀杏峰を往復した。宝慶寺キャンプ場にテントを張り一泊した。翌日、3 時起床で平家岳に登った。大野市の歴史・自然・眺望など充分楽しめ、満足のいくトレッキングになった。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日であった。

◆9 月 2 日　銀杏峰トレッキング記録

◆歴史探訪

◎五郎鉱山は、明治 10 年代まで採掘され、岩石は人力で麓まで運んだ。

産出したのは、銀ではなく、亜鉛・鉛・銅のようだ。

◆トレッキングの様子

小葉谷登山口から

林道にでる

鉱山跡石積み

急坂を登る

ブナの巨木で休憩

リンドウ畑は、蕾がいっぱい

銀杏峰山頂にて

下山

◆自然観察

クワガタ

ホツツジ

ツルリンドウ

オトコエシ

ミツバツツジ

クルマバハグマ

ユウレイソウモドキ

オクモミジハグマ

ササユリ

カニコウモリ

オトコエシ

オヤマボクチ

ミヤマヨメナ

アキギリ

イヌショウマ

キオン

ジンジソウ

ツルニンジン

サルナシの実

カメバヒキオコシ

シオガマギク

オオカメノキ

ウバユリ

ヤマブキショウマ

クロバナヒキオコシ

トリカブト

タムラソウ

ヤマジノホトトギス

キンミズヒキ

イタドリの花

◆キャンプ泊　　宝慶寺キャンプ場

◆9 月 3 日　平家岳トレッキング：福井県内で最も奥深い平家の落人伝説がある秘境を探訪

想像していた通りの秘境の地で、山頂からは、山また山が重なって、とても素晴らしい景色を楽しんだ。トレッキングコースには、珍しい山野草が楽しめた。

◆歴史①　道中で、**箱ヶ瀬橋**：夢の架け橋と言われ、瀬戸大橋の試作として作られた。

◆面谷鉱山跡：廃坑迹の朽ちた杭や石積み、草むらには墓石が多くあった。

面谷鉱山住居迹

■ 面谷（おもだに）鉱山～江戸時代

面谷鉱山の発見には 2 つの説があり、平安時代中期（1058～1064 年）に既に発掘されていた説と、室町時代前期（1342～1345 年）に清兵衛という猟師が露出した銅を発見してからという説があります。隆盛と没落を繰り返し、その後、天保 3 年（1832 年）より、大野藩が直接経営することになり、鉱山経営は、大野藩の財政建て直しに大いに貢献しました。

■ 明治時代～大正時代～閉山

明治 21 年（1888 年）には、三菱合資会社が継承し、本格的な近代鉱山の経営が開始します。三菱時代の中でも明治 22 年（1889 年）から大正 6 年（1917年）頃までが全盛時代であり、最盛期には 600 戸、3000 人が面谷の地に住んでいました。奥越の中心であった大野町にさえ電気が無かった頃、既に面谷川の流れを利用した自家発電が行われ、電話や電信も早くから開通して、その町並みは「穴馬銀座」と呼ばれていたそうです。しかし、第一次世界大戦後の銅需要の減少と安価な輸入銅に押されて採算が採れなくなり、ついに大正 11 年（1922 年）9 月、面谷鉱山は閉山となりました。人々は面谷から離れていき、現在は面谷鉱山住居跡地として、当時の住居跡と墓石に往時のおもかげを残すのみとなっています。

■ 追記

面谷鉱山は主に銅を産出していましたが、亜鉛や石英等の鉱物も産出しました。産出量においては大正 6 年（1917 年）の年産 32、950トンが最高だったようです。そんな景気最盛期から面谷が斜陽に差し掛かっていた大正 7 年（1918 年）10 月、スペインで発生した新型インフルエンザが襲来しました。鉱山の劇場で家族の慰安会が催され、診療所の医院長が村民に注意を促した矢先の同月中旬から 11 月にわたって全村民が罹患。流行が始まって僅か 1 ヶ月余りの間に 90 名以上の村民が死亡し、熟練工を多数失った鉱山は一時休止に追い込まれてしまいます。その後再開しますが、第一次世界大戦後の銅需要の減少と安価な輸入銅に押されて採算が取れなくなり、ついに大正 11 年（1922 年）9 月、完全閉山となりました。

◆平家岳トレッキングの様子

しばらく急登でシンドイ・・・

桧の巨木の前で

もうすぐ山頂で～す

山また山が重なり素晴らしい景色を楽しみながら

平家岳に到着

オブジェのような枯れ木・・お伽の国に迷い込んだような景色

◆自然観察

クサボタン

ツリフネソウ

ウド

ゴヨウマツの葉

タムシバの実

ヤマシグレの実

アケボノシュスラン

イワショウブ

コゴメグサ

カライトソウ

マタタビの実

リンドウ

マタタビの実の試食